

第1学年算数科学習指導案

日 時 令和6年9月12日(木)5校時
児 童 男10名 女8名 計18名
指導者 祝田 あずさ

1. 単元名 3つのかずのけいさん（東京書籍「新しい算数1―②」）

2. 単元について

（1）本単元で育成する資質・能力

第1学年

A 数と計算

（1）数の構成と表し方

ア 知識及び技能

（エ）一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。

（2）加法，減法

ア 知識及び技能

（ア）加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

（イ）加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

（ウ）1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

（エ）簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 思考力，判断力，表現力等

（ア）数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

（2）児童について

- ・課題を解決しようと一生懸命考える子が多い。
- ・自分の考えを積極的に話そうとする子が多い。
- ・友達の考えを肯定的に受け止める子が多い。
- ・分からないときや操作等を確認めるとき、ペアでの活動に取り組んでいる。
- ・できないことがあると、気持ちを切り替えて次に進むのが難しい子がいる。
- ・考えを話したいが、うまく言葉にできないことが多い。

（3）指導にあたって

- ・問題や挿絵に合わせてブロック操作をすることで、加法や減法であることを捉えさせる。
- ・3つの数を1つの式に表せることを理解させる。
- ・「のっている」「のった」「おりた」などのキーワードに着目させ、加法か減法か場面を明確に捉えさせる。
- ・ペアで話したり、全体で言葉を補い合いながら説明をしたりする方法を取り入れ、どの子も自分の考えを話せるようにする。

3. 単元の目標とつまずきへの手立て

本単元では、3つの数の加減計算の仕方を理解し、3つの数の加減計算の仕方を操作や式を用いて考える力を養うとともに、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

加法や減法については、第3単元「あわせていくつ ふえるといくつ」、第4単元「のこりはいくつちがいはいくつ」でその意味と1位数どうしの繰り上がり、繰り下がりなしの加減計算を、第7単元「10よりおおきいかず」では、「10といくつ」の数の構成に基づいた $10+5$ 、 $15-5$ 、 $12+3$ 、 $15-3$ などの計算の仕方をそれぞれ学習している。つまずきが想定されるのは、3つの数の加法や減法を1つの式に書けないことやお話の通りブロックを操作することができないことである。そのために、「のります」は加法、「おります」は減法というようにキーワードに着目させたり、場面ごとにイラストを掲示し、お話に合わせてブロックを操作したりする手立てを組む。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。	①ある場面が加法及び減法が用いられることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。	①加法及び減法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。

5. 指導と評価の計画（3時間）

・指導に生かす評価 ○記録に残す評価

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
1	3つの数の加法の式の意味を理解し、その計算をすることができる。	・P51の絵を見て、式を考える。 ・3つの数の加法の場面を1つの式に表す。 ・場面を1つの式に表すよさを確認する。 ・2つの数の加法計算を基にして、3つの数の加法計算の仕方を考え、計算する。	・知① 行動観察 ノート分析		
2	3つの数の減法の式の表し方について式と絵と操作を関連付けて説明することができる。 【本時2/3時間】	・P53の絵を見て、式を考える。 ・3つの数の減法の場面を1つの式に表す。 ・2つの数の減法計算を基にして、3つの数の減法計算の仕方を考え、計算する。 ・減法の式も、3つの数の計算を1つの式に表せることを確認する。		・思① 行動観察 ノート分析	
3	3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考え、説明することができる。	・P54の絵を見て式を考え、解決する。 ・3つの数の加減混合計算の場面を1つの式に表す。 ・3つの数の加減混合計算の仕方を考え、計算する。 ・4つの数の加減計算をする。	○知① 行動観察 ノート分析	○思① 行動観察 ノート分析	・態① 行動観察

6. 本時の指導（第2時／全3時間）

（1）目標

3つの場面から、減少する数に着目して、ブロックを操作する活動を通して、3つの数も1つの減法の式に表せることを理解し、式と絵とブロック操作を関連付けて説明することができる。

（2）評価規準と手立て

評価規準	努力を要する子どもへの手立て
[思考・判断・表現] 数量の関係に着目し、3つの数の減法の場面を捉え、ブロック操作から1つの式に表し、計算の仕方を説明している。	「乗っています」や「降りました」というキーワードに着目させ、ブロックは子どもが動かす。順番に取っていけば答えが出ると実感させる。

（3）つまずきの想定と支援

手立て1 つまずきの乗り越え方が分かる自力解決

【つまずき】…自力解決のときに、お話の通りブロックを操作できない。

支 援	・教師から ・友達から ・教科書やノートから ・掲示から	・「乗っています」や「降りました」というキーワードに着目させ、ブロックを操作させる。 →「降りました」は減るからひき算になる。 「降りました」が2回出てくるから、2回ブロックを取る。 ・教科書 P53 やノート、前時の掲示の確認を促す。
--------	---	---

手立て2 互いのつまずきを補い合う学び合い

【つまずき】…学び合いのときに、ブロック操作しながら説明できない。

支 援	・となり同士で ・みんなで	・言葉を補ったり、言い換えたりしながら別の子にも説明させる。 →初めに9ひき乗っています。 - 次に1ひき降りました。だから残りは8ひきです。 - 次に3ひき降りました。だから答えは5ひきです。 ・絵を指さしたり、ブロックを動かしたりしながら説明させる。 ・全体での学び合いを自分の説明に生かしながら、ペアで確認させる。
--------	--	---

(4) 展開

	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価	※支援 (※はつまずきの支援)
つかむ7分	1. 問題把握 ねこは、なんびきのこっていますか。 (9 ひきのこっています。1 ひきおりました。3 ひきおりました。) ○何びき乗っていますか。 「9 ひき」 ○どうになりましたか。 「バスから降りていってる。」 「ねこが少なくなっていく。」 「減っているからひき算。」 2. 課題把握 おはなしをしきにあらわそう。 3. 解決の見通し ○どうすれば式ができそうですか。 「お話の通りブロックを動かして考える とよさそう。」 「たし算もできたから、ひき算も1つの式 にできそう。」	- 教科書は開かず、机上に用意させる。 - 動画でお話の全体像を捉えさせる。 - 場面ごとに区切ってイラストを提示することで、3つの数を意識させる。 - ねこの動きの違いに気付かせ、本時はひき算になりそうだと考えさせる。		
やってみる5分	4. 自力解決 ○初めにブロックを何こ用意すればよいですか。 「9 こです。」 ○お話をしながらブロックを動かしてみよう。 「初めにねこは9 ひき乗っています。 1 ひき降りました。●● 次に3 ひき降りました。 だから答えは5 ひきです。」	- 初めに乗っていた数を答えさせ、9 このブロックを用意すればよいと気付かせる。 ※自分で、友達と、先生と考えるなど、自分でつまずきを乗り越える方法を選択させる。 ※「乗っています」や「降りました」というキーワードに着目し、ブロック操作をさせる。 - 話の順に取っていけば答えが出ると気付かせる。		

ふ か め る 15 分	5. 学び合い ①黒板に出てきて発表させる。 ブロックを操作しながら説明させる。 ②別の児童にも説明させる。 ③式に表すとどうなるか考えさせる。 ○お話の順番に式に表します。 $\begin{array}{r} 9 - 1 - 3 = 5 \\ \quad \quad \quad \textcircled{8} \end{array}$ ④ペアで説明させる。 「初めに9ひき乗っています。 次に1ひき降りました。 だから残りは8ひきです。 次に3ひき降りました。 だから答えは5ひきです。」	・1人でもペアでも出てきてよいことを伝える。 ※言葉を補ったり、言い換えたりしながら別の子にも説明させる。 ・子どもから式が出ない場合は、教師から教える。全員教科書を開かせる。 ・解き方の順番も教え、2つに分けて計算したときと同じであることに気付かせる。 ※全体での学び合いを自分の説明に生かしながら、ペアで確認させる。 [思考・判断・表現] 数量の関係に着目し、3つの数の減法の場面を捉え、ブロックを操作して計算の仕方を説明している。【観察・ノート】
ま と め る 3 分	6. まとめ ひきざんのときも1つのしきにあらわせる。	・児童から出てきた言葉を使ってまとめる。
ひ ろ め る 15 分	7. 適用問題 ①△4①9－3－4に取り組む。 ○ブロックは何こ用意すればよいですか？ 「9こ」 ○隣の人とお話しながらブロックを動かしましょう。 ②ブロックの動かし方を交流する。 「ブロックの数は9こです。 次に3ことと、残りは6こです。 最後に4ことと、残りは2こです。」 ③早く説明ができた児童には、②、③も操作、説明しながら解くように伝える。 8. ふりかえり	・数を変えても同じように操作、説明できるか確かめる。 ・抽象化しても説明できるように、ブロックをどのように動かしたのかを説明させる。 [思考・判断・表現] ・分かったことやこれからやってみたいことなどを発表させる。

(5) 板書計画

9 / 1 2 P 5 3

① か おはなしをしきにあらわそう。

② も ねこは、なんびきのこっていますか。



9 ひきのっています。

1 ひきおりました。

3 ひきおりました。

しき

$$\begin{array}{r} 9 \\ - 1 \\ \hline 8 \end{array} \quad \begin{array}{r} 8 \\ - 3 \\ \hline 5 \end{array} = 5$$

$$9 - 1 = 8$$

$$8 - 3 = 5$$

おなじ



こたえ 5 ひき

③ ま ひきざんのときも、1 つのしきにあらわせる。

△ 4

$$\textcircled{1} \quad \begin{array}{r} 9 - 3 - 4 = 2 \\ \hline 6 \quad 2 \end{array}$$

9 から 3 ひくと 6

6 から 4 ひくと 2

こたえは 2



$$\textcircled{2} \quad \begin{array}{r} 12 - 2 - 1 = 9 \\ \hline 10 \quad 9 \end{array}$$

$$\textcircled{3} \quad \begin{array}{r} 13 - 3 - 7 = 3 \\ \hline 10 \quad 3 \end{array}$$